

2018年10月11日

国際政策課 ITU 係

後藤 晃

## ITU-D SG2 ラポータ会合の結果

1. 日時:2018年10月1日(月)~11日(木)
2. 場所:ITU 本部(ジュネーブ)
3. 参加者:SG2 には7つの研究課題があり、各会合40名前後が参加。アルジェリア、エジプト、ギニア、ケニヤ、コートジボワール、ジンバブエ、セネガル、チャド、トーゴ、ニジェール、ブルキナファソ、マダガスカル、マリ、ルワンダ等アフリカ諸国からの参加者が多数。ほか、米国、英国、フランス、イタリア、エストニア、リトアニア、中国、韓国、インド、スリランカ、イラン、UAE、イスラエル、パレスチナ、ブラジル、パラグアイ、ハイチ等が参加。また、WHO、ILO、UNIDO 等の国際機関や各研究課題に関する ITU 担当者が参加。

我が国からは、橋本総務省セキュリティ統括官室補佐、後藤総務省国政課 ITU 係長、川角総務省参与(ITU 協会)、中島総務省参与(東海大学)、今中副ラポータ(NICT)、梅澤副ラポータ(KDDI 財団)、小林副ラポータ(NEC)、永沼副ラポータ(NEC)のほか、NTTドコモ、神戸国際大学、塩尻市、東北大学、日本光電工業、中小企業4社等21名が参加。

### 4. 概要:

ITU-D SG2 の7つの研究課題(スマート社会、eヘルス、サイバーセキュリティ、偽造対策、災害管理、環境、人体ばく露)について、本年5月のSG2 会合で決定した今次研究会期(2018年~2021年)における各研究課題の活動方針に基づき、会期末における最終報告書やガイドライン等の取りまとめに向けて、加盟国、セクターメンバー、試行的に参加が認められた中小企業(SME)及びITU 事務局から提出された寄書の報告及び議論、ワークショップでのプレゼンテーション等を通じたベストプラクティスの収集及び分析が行われた。また、他の国際機関、ITU-T 及びRのSG、ITU-D SG1 等との連携及び重複回避、今後の作業方針・スケジュール等について議論し、合意した。このほか、各研究課題における年次報告書の作成に向けて、各課題のラポータ及び副ラポータがメーリングリスト等を通じて議論し、来年3月の次回SG 会合までにドラフトが提出されることとなった。

各研究課題の成果物に我が国のベストプラクティスを反映させて途上国をはじめ諸外国に広く共有するとともに、我が国の優れたICTの技術、システムの海外展開を支援するため、今次会合において以下の取組みを実施。

(1)SME の参加及び展示ブースの出展

2017年の理事会で、SMEは分担金の支払いなしでITU-D及びTのSG関連会合に参加できるパイロットプロジェクトの実施を決定。今次SG2ラポータ会合に我が国から以下4社の参加希望があり、寄書の提出及び展示ブースの出展を支援した。

企業名	参加形態
大和コンピューター	IoTセンサー及びビッグデータによる効率的な農作物の栽培システムについて、スマートシティに関する研究課題の会合への寄書提出及び同システムを用いて栽培したマスクメロンの出展及び試食会の実施。試食した参加者からはメロンの糖度の高さが大変好評であった。
ASTEM	IPTVによる聴覚障害者向けの字幕及び手話付き放送システムについて、防災ICTに関する研究課題のワークショップでのプレゼン及び出展。
メロディ・インターナショナル	妊産婦リモート診断システムについて、eヘルスに関する研究課題の会合への寄書提出、ワークショップでのプレゼン及び出展。
オレンジテク・ラボ	保健医療情報のビッグデータから各種ソリューションを導き出すAIディープラーニングシステムについて、eヘルスに関する研究課題の会合への寄書提出、ワークショップでのプレゼン及び出展。

上記4社のほか、NICTが移動式ICTユニット「MDRU」を展示。機能の詳細や衛星通信との連携等についてアフリカ諸国から関心が寄せられた。

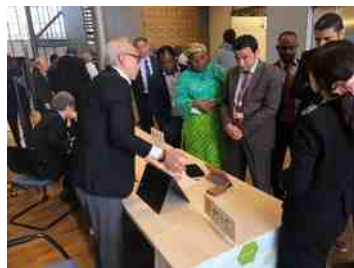
SME各社、ITU-Dのキム部長(SG担当)と会談し、今回参加してみたいの感想や今後の参加の意向について協議を実施。同部長によると、今次全権委員会において、SMEの参加に関する新決議の提案を検討中であり、パイロットプロジェクトの4年延長やSMEを対象とする新たなメンバー資格の創設(分担金の負担あり)を検討中とのことであるが、各社とも前者を希望。なお、他国からは、イタリアとエストニアから各1社のSMEが課題3のサイバーセキュリティの会合に参加。前者はクラウドコンピューティングにおける個人データ保護の概念を紹介し、後者は実効性あるサイバー訓練プログラムの確立を提言。



ICT栽培メロン試食会



MDRUの展示



妊産婦診断システムの展示

(2)我が国主導でのワークショップの開催

日本人ラポータ及び副ラポータと協力し、我が国主導で防災 ICT、eヘルス、サイバーセキュリティに関するワークショップを開催し、我が国の優れた ICT の技術、システムについて紹介するとともに、サイバーセキュリティ政策について共有した。

イベント名	日時	概要
緊急通信システムを利用した防災訓練に関するワークショップ(SG2 課題 5 災害管理関連)	10/3 (水) 午前及び午後 前半	NTT が開発した移動式 ICT ユニット「MDRU」や NICT が開発した「耐災害ワイヤレスメッシュネットワーク」の災害時における活用事例、ASTEM 社が開発した IPTV による字幕及び手話付き放送サービス、東北大学によるグローバルな災害被害統計データベース整備の取組み等を紹介。
新たなデジタル医療技術の導入に関するワークショップ(SG2 課題 2 eヘルス関連)	10/5 (金) 午前	メロディ・インターナショナルが開発した妊産婦リモート診断システム、日本光電工業が開発した AED リモート管理システム、オレンジテック・ラボが開発した医療情報の AI ディープラーニングシステム、神戸国際大学の研究成果である遠隔医療長期利用者ほど医療費と治療日数が減少する調査結果等を紹介。関連の展示ブースをより多くの参加者に披露するため、コーヒープレイクを提供。
サイバーセキュリティの新たな課題に関するワークショップ(SG2 課題 3 サイバーセキュリティ関連)	10/9 (火) 午前	総務省の IoT セキュリティ総合対策の具体的施策として、脆弱性対策に関する体制整備、研究開発の推進、民間企業等におけるセキュリティ対策の促進、人材育成の強化、国際連携の推進に取り組んでいる旨プレゼン。参加者との関連な質疑、意見交換の場としてコーヒープレイクを提供。

上記のほか、持続可能な産業化のためのコネクティビティを強化する技術とイノベーション(10/1、課題 1 スマート社会関連)、電子廃棄物に関する政策(10/9、課題 6 環境関連)、電磁界の人体ばく露に関する政策(10/10、課題 7 人体ばく露関連)についてワークショップが開催された。



防災ワークショップ



eヘルスワークショップ



サイバーセキュリティワークショップ

### (3)積極的な寄書の提出

我が国より、SG2 ラポーター会合全体で 11 件の寄書を提出。スマート社会、e ヘルス、災害管理、環境に関するベストプラクティスについて、各国と共有した。

研究課題	寄書	提出元
SG2 課題 1 スマート社会	持続可能なスマートシティの提案	塩尻市
	IoT 時代に相応しい通信システム候補「LTE Cat.M1」	KDDI
	マスクメロン栽培における ICT 活用農法	大和コンピューター
	スマートな都市及び社会の安全性	NEC
SG2 課題 2 e ヘルス	慢性疾患患者への長期的遠隔医療の経済効果	神戸国際大学
	無線ネットワークに繋がる AED リモート監視システム	日本光電工業
	ICT を活用した遠隔地のための妊婦の健康管理	メロディ・インターナショナル
	IT サポートによる医療	オレンジテク・ラボ
SG2 課題 2 災 害管理	早期警報及び災害情報の早期収集に関する日本の開発動向	NICT
	災害統計グローバルセンター	東北大学
SG2 課題 6 環境	東京 2020 大会メダルプロジェクト	NTTドコモ

なお、他国からの寄書提出は、ブラジルから 5 件、フランス、セネガルから 3 件、中国、インドから 2 件、英国、スイス、ハンガリー、エストニア、リトアニア、ロシア、韓国、エジプト、ギニア、ナミビア、ベニン、ルワンダ等から 1 件。

### (4)他国寄書への対応

全般的に各国のベストプラクティスを紹介する寄書が多かったが、課題 3 サイバーセキュリティの会合において、ブラジルから新たに各国のサイバーセキュリティの動向に関する調査を実施するよう提案。当方より、既に ITU が 2 年ごとにグローバル・サイバーセキュリティ・インデックス(GCI)調査を実施しているところ、ブラジル提案の調査項目は多くが GCI 調査と重複しているため、両者を十分比較・精査した上で、重複のない項目のみを GCI に盛り込む必要がある旨提言。コーヒープレイク中に関係者間で協議した結果、ブラジル提案の調査項目のうち GCI と重複のないものを精査して抜き出した上で、GCI の調査票の別添という形で追加する方向で、2 年後の次回 GCI 調査に間に合うよう作業を進めることとなった。

## 5. その他

(1)9月17日(月)から28日(金)にかけてITU-D SG1 会合が開催され、我が国からは川角総務省参与及び松本総務省参与が参加。ITU-D SG1 の7つの研究課題(ブロードバンド政策、デジタル放送、新たな技術、料金政策、ルーラル通信、消費者保護、障害者のアクセス)について、本年5月のSG1 会合で決定した今次研究会期(2018年~2021年)における各研究課題の活動方針に基づき、会期末における最終報告書やガイドライン等の取りまとめに向けて、加盟国、セクターメンバー、SME 及びITU 事務局から提出された寄書の報告及び議論、ワークショップでのプレゼンテーション等を通じたベストプラクティスの収集及び分析が行われた。我が国からは障害者のアクセシビリティ(課題7)の関係で2件の寄書を報告した。また、他の国際機関、ITU-T 及びRのSG、ITU-D SG2 等との連携及び重複回避、今後の作業方針・スケジュール等について議論し、合意した。

大きな議論があったものとして、新たな技術に関する会合(課題3)において、OTTサービスと通信サービスは区別ができない状況となっているが、途上国に普及しているOTTサービスは各国では規制できず、課税もできないので、世界共通の規制が必要ではないかという意見がアフリカの数カ国から提起。ITU 憲章で規定すべきとの意見も出されたことから、国際電気通信規則(ITR)の問題に発展する可能性もある。また、消費者保護に関する会合(課題6)において、不正SIMカードが通信事業者に多大な損害を与えているものの規制ができない状況に鑑み、ITU 憲章あるいはITRなど国際的な規制を設けるべきとの意見が出された。

このほか、デジタル放送に関する会合(課題2)において、川角参与より、本年10月に東京オリンピック・パラリンピックに備え4K・8Kの公共放送が開始される旨発言したところ、議長から次回会合にぜひ寄書を出して欲しい旨要請された。

(2)川角総務省参与のこれまでの48年に及ぶITUの活動への貢献・功績が評価され、10月8日(月)の午後のブレイク中にジャオ事務総局長から表彰状が授与された。



事務総局長から川角参与への表彰状授与

## 6.次回会合日程

SG1 会合:2019年3月18日(月)~22日(金)

SG2 会合:2019年3月25日(月)~29日(金)

以上